

誰も排除しないスポーツ環境づくりのためのハンドブック
Handbook for the creation of inclusive sports environments

SPORTS for EVERYONE

スポーツ フォー エブリワン

スポーツ組織でできる
LGBTQ+ インクルーシブな
環境づくり

Tips for sports organizations creating
an LGBTQ+ inclusive environment

第3版
2025.03.31



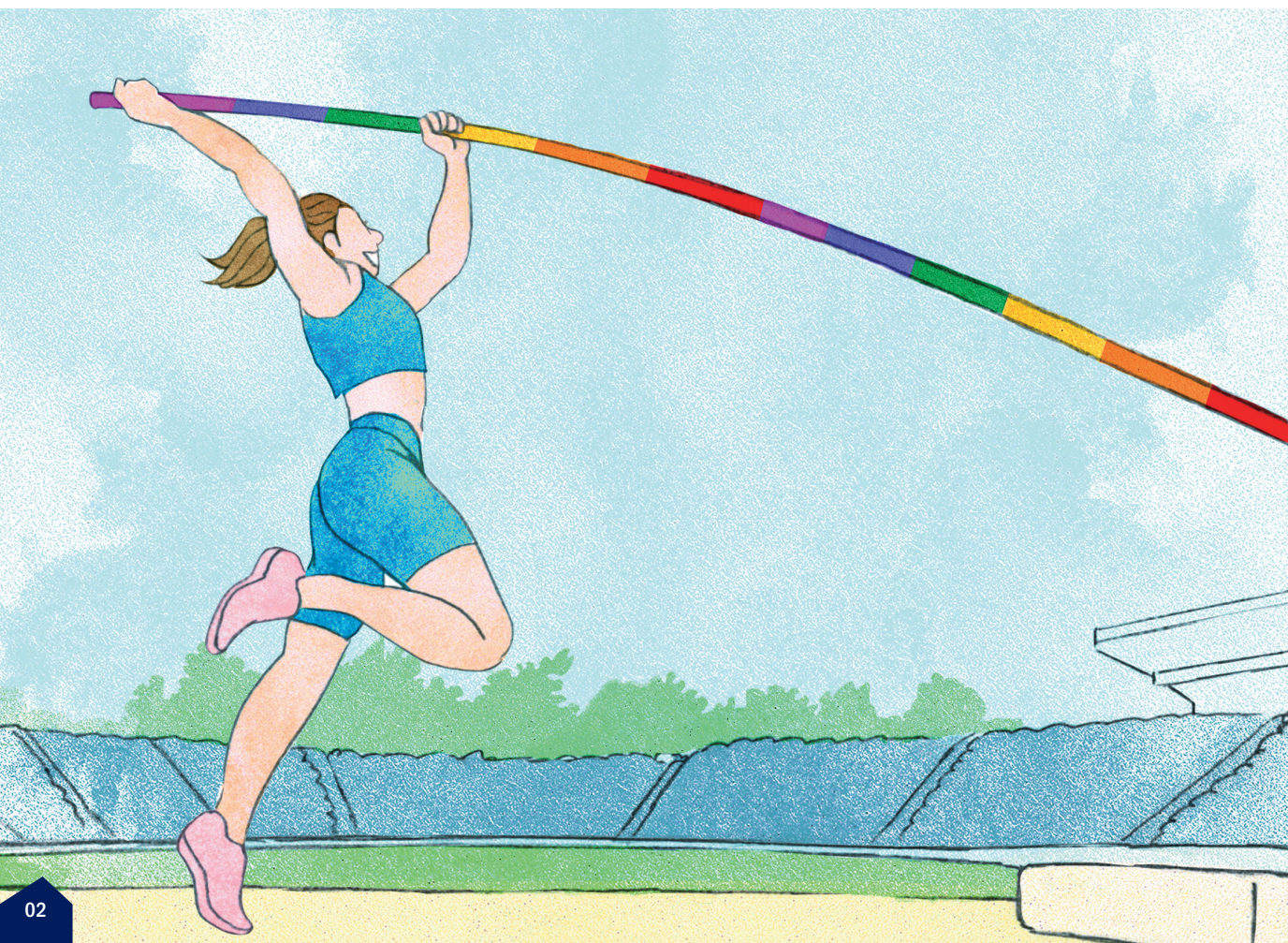
はじめに

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）では、2014年12月に改正されたオリンピック憲章の「オリンピズムの根本原則6」に則り、性別・性的指向による差別が禁止されています。また、2015年にはトランスジェンダーの選手の参加条件が、IOC（国際オリンピック委員会）から提示されています（2021年11月再改訂）。東京2020大会をきっかけに国内のLGBTQ+等の性的マイノリティ当事者（以下、LGBTQ+）が直面する課題が広く認識されてきました。プライドハウス東京では2019年に、LGBTQ+に関する基礎知識、LGBTQ+がスポーツをする上で直面する課題、そして誰もが自分らしくスポーツを楽しむことのできる環境のヒントとなる冊子『SPORTS for EVERYONE ～誰も排除しないスポーツ環境づ

くりのためのハンドブック～』を発行しました。一方で、スポーツ界の性別、性的指向、性自認に対する差別や偏見は根強く、構造的な不平等が内在されており、個人のアクションのみならず組織としてもこの課題に取り組む必要性があります。そこで、スポーツリーグやクラブがLGBTQ+フレンドリーなスポーツ環境づくりに取り組むためのガイドブックを作成しました。

本冊子は、スポーツ界のLGBTQ+に関する課題解決に取り組むアメリカ屈指の非営利団体、アスリートアライ（Athlete Ally）の資料を日本の文化に合わせた形で翻訳しています。誰もが排除されないスポーツ環境と社会のためにスポーツ団体と力を合わせていきたいと思います。

プライドハウス東京



Introduction

All forms of discrimination based on gender or sexual orientation is prohibited at the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games since Principle 6 of the Olympic Charter was last amended in December of 2014. Then in 2015, the International Olympic Committee released guidelines that created rules on the eligibility of transgender athlete participation (November 2021 revision). With the upcoming Tokyo 2020 Olympics and Paralympics, awareness about LGBTQ+ issues in Japan is also on the increase. In 2019, Pride House Tokyo published “SPORTS for EVERYONE – A Handbook for Creating Sporting Environments Free from Exclusion”, an educational resource about LGBTQ+ and the issues that they face in sports, which also provided hints on how everyone can enjoy sports while being their authentic selves.

Nevertheless, discrimination and prejudice based on gender, sexual orientation and gender identity remains deeply and structurally ingrained in sports. That is why these issues require not only individuals to act but also organizations to get involved. We created this guidebook to help those very organizations, sports leagues and clubs create an LGBTQ+ friendly sporting environment.

This guidebook is based on resources provided by Athlete Ally, an American non-profit organization tackling LGBTQ+ issues in sports and adapted to Japanese cultural realities. We are looking to join forces with as many sporting organizations as possible to create an inclusive sporting environment and society.

Pride House Tokyo



🏠 もくじ

はじめに	02
もくじ／アスリートアライとは	04
アスリートアライからのメッセージ	05
LGBTQ+ インクルージョンについての10の規定	06
指導者のためのLGBTQ+ 理解とアライガイド	10
よくある質問	
LGBTQ+／トランスジェンダーおよびノンバイナリーに関する規定	12
Pride Match in a Box	24
「プライド」という言葉の発祥とその重要性	26
プライドマッチを計画する	
検討すべきこと	28
プライドマッチを計画する	
試合前、試合中、試合後に何をすべきか	30
- 試合前の取り組み	
- 試合中の取り組み	
- ソーシャル／デジタルメディアの取り組み	
- メディアを通じた取り組み	
- 試合後のフォローアップ	
シアトルのスポーツ界でのプライドマッチの共催	
ケーススタディ	36
ファンの行動規範の例	36
アスリートからのメッセージ	38
プライドハウス東京とは	40

🏠 アスリートアライとは

アスリートアライ (Athlete Ally) は、スポーツ界に蔓延するホモフォビアやトランスフォビアを終わらせ、LGBTQ+ の平等を支持するリーダーシップを発揮するために、スポーツ界を活性化させることを目的として設立された米国拠点の非営利団体です。

🏠 What is Athlete Ally?

Athlete Ally is a U.S.-based nonprofit organization working to end the rampant homophobia and transphobia in sport, and to activate the athletic community to exercise their leadership to champion LGBTQ+ equality.

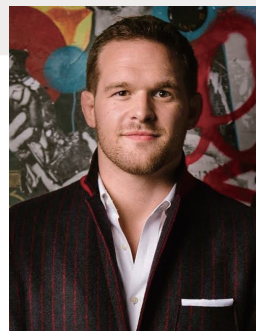
🏠 Table of Contents

Introduction	03
What is Athlete Ally?	04
Table of Contents, Message from Athlete Ally	05
10 Policies for LGBTQ+ Inclusion	07
Ally Guide for Coaches	11
FAQ: LGBTQ+/Transgender & Non-binary Policies	13
Pride Match in a Box	25
History & Significance of Pride	27
Planning a Pride Match	
Key Considerations	29
Planning a Pride Match	
What Should Happen Before, During, and After the Game	31
- Pre-Game Activations	
- In-Game Activations	
- Social/Digital Activations	
- Media Activations	
- Post-Game Follow Up	
Seattle Sports Coordinated Pride Match	
A Case study	37
Sample Fan Code of Conduct	37
Messages from Athletes	38
About PRIDE HOUSE TOKYO	40

🏠 アスリートアライからのメッセージ

スポーツは、すべてのLGBTQ+アスリートが歓迎されるべき場所です。スポーツ団体は、差別に対して声を上げ、包括的な規定を策定し、アスリートのありのままの姿を祝福するための重要な役割を担っています。

ハドソン・テイラー
アスリートアライの創設者兼エグゼクティブ・ディレクター



🏠 Message from Athlete Ally

Sport should be a welcoming place for all LGBTQ+ athletes. Sport organizations have a powerful role to play in speaking out against discrimination, developing inclusive policies and celebrating athletes for who they are.

Hudson Taylor,
Founder and Executive Director of Athlete Ally

LGBTQ+ インクルージョンについての10の規定

あなたのチームや組織をよりLGBTQ+ インクルーシブ(LGBTQ+ が排除されない)な環境にしたいですか? すべてのプログラムが採用すべき10の規定を以下に挙げます。

01 LGBTQ+ インクルーシブのための差別禁止規定

スポーツ組織は、「性的指向」「性自認」「性別表現」に基づく差別を禁じることを明確に示した差別禁止規定が定められているべきです。あなたの組織がすでに差別禁止規定を設けているなら、そこに性に関わる差別禁止を追加するか、独立した差別禁止条項を加えることで実現できます。[※]

※現在日本にはLGBTQ+ への差別を禁止する法律がなく、また差別禁止規定を定めているスポーツ組織も多くない。
スポーツ組織の中で差別禁止規定を定めることは極めて重要なことである。

02 組織内のLGBTQ+ インクルーシブな行動規範

スポーツ組織はすべての活動において、選手、指導者、およびスタッフによる同性愛、トランスジェンダー、LGBTQ+ を差別するような行為を断固として禁じ、非難しなければなりません。既存のハラスメントに関する規定に独立した条項を追加するか、LGBTQ+ の保護の概念を加えることで実現できます。この行動規範では、違反を報告し、対処する明確な仕組みなど、違反行為に関与した場合に起こりうる結果について説明する必要があります。

03 チームのLGBTQ+ インクルーシブな行動規範

各チームにおいて、LGBTQ+ の人たちに対する尊重を推進することへの期待を込めた行動規範の策定も推奨されなければなりません。この行動規範では、違反行為を犯した場合にどうなるかを明確にし、シーズン初めにすべてのチームメンバーに直接伝えておく必要があります。

04 ファンのインクルーシブな行動規範

組織によるインクルージョン、尊重、安全への取り組みは、ファンコミュニティのメンバーにも広げなければなりません。選手や指導者と同様に、ファンもフィールドやスタンドにいる人たちによる差別的な言動にさらされてはなりません。こうした価値観と期待は、クラブ公式のファン行動規範を通してファンに伝える必要があります。さらに、ファンの行動規範では、違反を報告し、対処する明確な仕組みなど、違反行為に関与した場合に起こりうる結果について説明する必要があります。

05 LGBTQ+ インクルーシブなメディアコミュニケーション

スポーツ組織は、すべてのメディアコミュニケーションおよび求人に関する資料（メディアガイド、地域広報誌、チームのパンフレットなど）に、差別禁止の文言や条項を必ず入れておかなければなりません。メディアと最も頻繁に接する組織のメンバーは、LGBTQ+ に特化したメディア研修を受ける必要があります。

10 Policies for LGBTQ+ Inclusion

Want to make your organization and team more LGBTQ+ -inclusive?
Here are the 10 policies every program should have.

01 LGBTQ+ -Inclusive Nondiscrimination Policy

Sport organizations should have a written discrimination policy that explicitly covers “sexual orientation,” “gender identity,” and “gender expression.” This can be accomplished by adding these classes to existing nondiscrimination protections or inserting a stand-alone clause to existing policy materials.

02 Organizational LGBTQ+ -Inclusive Code of Conduct

Sport organizations should explicitly ban/condemn homophobic, transphobic, and/or anti-LGBTQ+ conduct by players, coaches and staff in all athletic activities. This can be accomplished by a stand-alone clause or by including LGBTQ+ protections in existing organizational harassment policies. These codes of conduct should outline potential consequences for engaging in behaviors that violate the code of conduct, including clear mechanisms to report and address the violation.

03 Team LGBTQ+ -Inclusive Code of Conduct

Individual teams should be encouraged to create Codes of Conduct that clearly state an expectation to promote respect towards LGBTQ+ people. These Codes of Conduct should clearly outline potential consequences for engaging in behaviors that violate the code of conduct and be directly communicated to all team members at the start of the season.

04 Inclusive Fan Code of Conduct

The organization’s commitment to inclusion, respect, and safety should extend to members of their fan community. Fans, like players and coaches, should not be subjected to discriminatory language and behavior by those on the field or in the stands. These values and expectations should be communicated to fans via the club’s official fan code of conduct. In addition, the fan code of conduct should outline potential consequences for engaging in behaviors that violate the code of conduct, including clear mechanisms to report and address the violation.

05 LGBTQ+ -Inclusive Media Communications

Sport organizations should ensure all media communications and recruiting materials (media guides, community outreach, team camp brochures, etc.) include a nondiscrimination language/clause. Members of your organization who are in most frequent touch with the media should have LGBTQ+ -specific media training.

06 トランスジェンダーおよびノンバイナリーの選手に関する インクルーシブな規定

スポーツ組織は、トランスジェンダーおよびノンバイナリー[※]の選手の参加に関するわかりやすく簡潔な明文化された規定を有していなければなりません。競技を越えた多くの賛同者が、トランスジェンダーの選手が自己同一性を持って、性自認と一致したスポーツチームに参加できるようにすることを支持しています。

[※]自身の性別を「男性」「女性」といった従来からの二元論の枠組みで捉えない人。

07 インクルーシブな服装規定

すべての服装規定は、さまざまな形態で性別表現ができるように、性別を問わないものでなければなりません。インクルーシブではない服装規定の一例が、プロフェッショナルな装いが求められるイベントで、女性にスカートやドレスの着用を求めることです。出生時に割り当てられた性別に基づいて着るべき服を指定するのではなく、プロフェッショナルな装いとして許容できない服の種類やスタイルを簡潔に説明するのがよいでしょう。

08 LGBTQ+に関する研修

LGBTQ+ インクルージョンに関する規定が素晴らしい内容であっても、その影響を受ける人々に適切に伝わっていなければ効果がありません。したがって、適宜研修を実施することが、LGBTQ+ インクルーシブな環境を作るためには不可欠です。

研修は以下のように実施するのがよいでしょう。

- 年に1度以上実施する
- すべての指導者、選手、スタッフに参加を義務付ける
- すべてのLGBTQ+ハラスメント規定とチームの行動規範を確認する
- アライシップ[※]の好事例を取り上げる

スポーツ組織は年間を通じて、研修を実施していない期間にも、指導者、選手、スタッフがいつでも利用できる、誰も排除しないスポーツ環境づくりのためのLGBTQ+に関わる情報、研修等で活用できる資料や統計情報を最新の状態で更新しておかなければなりません。

[※]当事者の「味方 (ally)」として、当事者とともに差別や偏見の撤廃に向けて行動する行為や関係性のこと。

09 報告

人種、性差、同性愛、そしてトランスジェンダーを差別する行為やハラスメントの発生を報告するための、明確で分かりやすい組織内の仕組みを整えてください。この仕組みについて定めた方針では、匿名による報告が可能であること、報告に対する対応の手順を明確に示すこと、どのような行為が懲戒対象となるか、を示す必要があります。この方針は規定として明文化され、指導者、選手、スタッフが容易に確認できる形で公表されなければなりません。

10 施設

スポーツ組織は、選手が何より快適で安全だと感じるトイレや更衣室を使用できるように最大限配慮しなければなりません。少なくとも、組織やチームは、男性用および女性用ロッカールーム内に個室の更衣室やシャワールームを設置し、トランスジェンダー、ノンバイナリー、そしてプライバシーが守られることを望む人に対応すべきです。選手、指導者、およびスタッフにも、性自認と一致する施設を使用することを認めるべきです。これらについて定めた規定は、選手、指導者、およびスタッフに明確に伝える必要があります。

06 Inclusive Transgender & Nonbinary Athlete Policies

Sport organizations should have a clear and well-written policy regarding the participation of transgender and non-binary athletes. Many trans sports advocates support allowing transgender athletes to self-identity and participate on the sports team consistent with their gender identity.

07 Inclusive Dress Code

All dress code policies should be gender neutral to allow for different forms of gender expression. An example of a non-inclusive dress code is one that would require women to wear skirts or dresses to events where professional dress is required. A best practice is to simply outline the type or style of clothing that will not be accepted as professional attire rather than dictate which clothes people should wear based on sex assigned at birth.

08 LGBTQ+ Training

Excellent LGBTQ+ -inclusion policies will be ineffective if these policies are not adequately communicated to the people they impact. Therefore, having timely training is essential for creating LGBTQ+ -inclusive environments. As a best practice, these trainings should:

- Be held at least once a year
- Be mandatory for all coaches, players, and staff
- Review all LGBTQ+ harassment policies and team Codes of Conduct
- Cover allyship* best practices

Sport organizations should also maintain up-to-date LGBTQ+ -inclusion resources that are readily available to coaches, players, and staff throughout the year, in between training.

*This refers to the act or relationship of standing alongside those directly affected, as an "ally"- actively working together to eliminate discrimination and prejudice.

09 Reporting

Have a clear and visible reporting mechanism for reporting incidences of racist, sexist, homophobic or transphobic conduct and harassment. These policies should allow for anonymous reporting, have clearly stated timelines for action, outline a non-exhaustive list of disciplinary actions, be visible, published in a place where coaches, players and staff can easily access.

10 Facilities

Your organizations and teams should make every effort to allow athletes to use the bathrooms and changing facilities in which they feel most comfortable and safe. At a minimum, organizations and teams should provide private changing spaces and showers in the men's and women's locker rooms to accommodate transgender, nonbinary, and other individuals who desire privacy. Players, coaches, and staff also should be permitted to use the facilities consistent with their gender identity. These policies should be communicated clearly to coaches, players and staff.

指導者のための LGBTQ+ 理解とアライガイド

人権を尊重する

リーダーである指導者は、すべての人を尊重するように求めることを通じて、常にインクルーシブ（誰も排除しない）なチーム空間を作るうえで重要な役割を果たすことができます。調査によれば、指導者の態度や価値観が選手のモデルになることがしばしばあります。ですから、あなたの態度や行動が重要なのです。互いを尊重し、インクルージョン（誰も排除せず、互いに手を取り合って社会の一員となっていくこと）の実現は、あなた自身がそのような価値観を持つことから始まります。配慮を忘れず、目的意識を持ちましょう。LGBTQ+インクルーシブなチームの行動規範の例については、アスリートアライ（Athlete Ally）の「LGBTQ+インクルージョンのための10の規定」(P.06,08)を参照してください。

研修を受ける

選手や指導者からカミングアウトされた場合、どうすればよいか分かりますか？ 安心して過ごせる、LGBTQ+インクルーシブな空間を作る方法を知りたいですか？ それならば、一歩踏み出し、その難しい問題を提起し、情報を集め、研修を受けることです。LGBTQ+インクルージョンの研修を受けることは、すべての選手が成長し、チームや組織がその価値を実現できるインクルーシブな空間を作り出すのに役立ちます。LGBTQ+インクルージョン研修について詳しく知りたい場合は、下記のサイトにアクセスしてください。

●プライドハウス東京 ウェブサイト
<https://pridehouse.jp/handbook/>



●日本スポーツ協会 ウェブサイト
<https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html#guide1>



●アスリートアライ ウェブサイト
<https://www.athleteally.org/>
(英語のみ)



言葉は大切である

同性愛嫌悪、トランスジェンダー嫌悪、あるいは性差別をするような言葉は、フィールド上だけでなく、フィールド外でも禁止すべきです。選手、保護者、および指導者と一緒にいるときには、使う言葉に気を付けてください。同性愛嫌悪、トランスジェンダー嫌悪、または性差別をする言葉をチーム内外で耳にした場合は、即座に反対の声を上げてください。差別的な言葉を容認しないことを表明することが、何が人権侵害になるのかについての境界を明確にし、インクルーシブな雰囲気醸成するのです。

常に新しい情報を入手する

競技のために、初めての会場、都市、都道府県に出向くことがありますか？ 選手たちが性自認と一致したトイレと更衣室を使用できるようにしてください。こうした知識があれば、すべての選手にインクルーシブな経験を提供することができるだけでなく、遠征や競技において、あなた自身が、そして選手やその家族が、十分な情報に基づいて判断を下すことができます。

変化を支える

変化は内側から生じるものです。指導者がチームとクラブの運営においてポジティブな変化をサポートすれば、組織、学校、そしてリーグはよりインクルーシブになるでしょう。学校や組織にLGBTQ+インクルーシブな規定や実践が不足している場合は、変化が必要であるという声を上げて主張しましょう。インクルーシブな規定は連鎖反応を促すでしょう。LGBTQ+の選手、ファン、指導者ための多様性とインクルージョンへの取り組みは、あなたの所属するチームやリーグを越えて広がるでしょう。好事例と規定の実例については、アスリートアライの「LGBTQ+インクルージョンについての10の規定」を参照してください。

Ally Guide for Coaches

Champion Respect

As leaders, coaches can play a major role in creating inclusive team spaces by demanding respect for everyone, at all times. Research shows that a coach's attitudes and values are often mimicked by players. As such, your attitudes and actions matter. Championing respect and inclusion starts with your own inclusive philosophy. Be mindful and intentional. For examples of LGBTQ+ -inclusive team codes of conduct, see Athlete Ally's 10 Policies for LGBTQ+ Inclusion.

Get Trained

Not sure what to do if a player or coach comes out? Want to know how to create safe LGBTQ+ -inclusive spaces? Step up, ask those hard questions, get informed, and get trained. LGBTQ+ inclusion training helps create inclusive spaces where all players can thrive, and where teams/organizations can flesh out their values. For more information about LGBTQ+ -inclusion trainings, contact us or visit

PRIDE HOUSE TOKYO Website
<https://pridehouse.jp/handbook/>



Japan Sport Association Website
<https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html#guide13>



Athlete Ally Website
<https://www.athleteally.org/contact/>



Words Matter

Homophobic, transphobic or sexist language should be banned on and off the field. Be mindful of the language you use when working with players, parents and other coaches. If you hear homophobic, transphobic or sexist language on or off the team, immediately speak out against it. Expressing that you will not tolerate such language establishes a clear boundary of respect and fosters an inclusive atmosphere.

Stay informed

Traveling to a new venue, city, or state to compete? Make sure your players are able to use bathrooms and locker rooms consistent with their gender identity. This knowledge allows you to help curate an inclusive experience for all players, and helps you, your players and their families to make informed decisions when traveling and competing.

Champion Change

Change comes from within. Organizations, schools and leagues become more inclusive when coaches support positive change on team and administrative levels. If your school or organization lacks LGBTQ+ -inclusive policies or practices, speak up and advocate for change. Inclusive policies can spark a chain reaction. Your commitment to diversity and inclusion for LGBTQ+ athletes, fans and coaches can extend far beyond just your team or league. For examples of best practices and policies, see 10 Policies for LGBTQ+ Inclusion.



よくある質問

LGBTQ+／トランスジェンダーおよびノンバイナリーに関する規定

これはスポーツ組織関係者からよく寄せられる質問を基にまとめたものです。本資料が、あなたが所属する組織やチームでLGBTQ+ インクルーシブ (LGBTQ+ が排除されない) な規定を作成するのに役立てば幸いです。

Q LGBTQ+ 教育は、すべての選手にどのように役立つのでしょうか？ 所属する組織やクラブ、チームの文化を変えるために、 私にできることは何でしょうか？

すべての選手がLGBTQ+ への尊重とインクルージョンの重要性を理解することが大切です。すべての選手がありのままの自分らしくオープンに生活し、競技に参加することができれば、チームは優れた成果をあげることができるでしょう。LGBTQ+ の選手から繰り返し聞くのが、孤独で、本当の自分を隠しているせいで、競技に思い切り取り組んで成長することができなかったという話です。組織／クラブ／チームの文化を変えるのには時間がかかりますが、オープンで率直な会話がきっかけとなることが多々あります。LGBTQ+ への尊重とインクルージョンに関する教育は、あなたが属するスポーツコミュニティのすべてのメンバーにとって重要な一歩なのです。

Q LGBTQ+ インクルーシブな規定の策定は、 どのようにして始めたらよいのでしょうか？

パートナーを特定する

LGBTQ+ インクルージョンに関する規定の策定は、一人でできることではありません。そこで、規定の策定について対話を始める前に、規定の策定と導入をサポートしてくれそうなパートナーを、現在または将来あなたが属する部署、地域において見つける必要があります。それはあなたが「心強いパートナー」と思える個人または団体です。その例として、学内のLGBTQ+ センター、指導者、カミングアウトしている選手、そして規定策定のプロセスに重要なフィードバックやサポートを提供してくれそうな職員などが挙げられます。

パートナーを見つけれたら、直接パートナーとつながるようにします。パートナーを会食に誘うなど、個人的、または小規模なグループで会話をするのもよいでしょう。あなたと協力してLGBTQ+ インクルーシブな規定を策定することに関心のある人を見つけれたら、次のステップとして、組織／クラブ／チーム内にLGBTQ+ インクルーシブな空間を作ることに重点を置いて取り組む勉強会、作業部会、または委員会を立ち上げます。



FAQ

LGBTQ+/Transgender & Non-binary Policies

This document was put together based on a series of frequently asked questions by sport administrators. We hope you will find this resource useful in developing LGBTQ+ policies at your organization or team.



How does LGBTQ+ education benefit all athletes? What can I do to change the culture in my organization/club/team?

It's important for all players to understand the importance of LGBTQ+ respect and inclusion. When all athletes are able to live and compete openly as their authentic selves, teams are able to excel. We've heard repeatedly from LGBTQ+ athletes that being isolated and closeted has prevented them from fully competing and thriving in their sport. Changing culture in the organization / club/ team takes time and often starts with open and honest conversations. Education on LGBTQ+ respect and inclusion is an important step for all members of your athletic community.



How do I even get started in creating LGBTQ+ inclusive policies?

Identify your partners

Prior to initiating the conversation about creating policies, you must first identify current and potential department, campus, and community partners who could support you in developing and implementing these policies, as LGBTQ+ inclusion work cannot be done in isolation. These are individuals or groups who you would consider "powerful partners." Some examples of powerful partners include the campus LGBTQ+ center, your team's director or coaches, out athletes, and other faculty or staff who could provide important feedback or support to the process.

After you've identified your partners, connect with them in person. This could include individual or small group conversations, such as inviting folks for a coffee. After you've identified who is interested in working with you to create LGBTQ+ inclusive policies, a next step might be creating an interest group, a working group, or a committee that would focus on creating LGBTQ+ inclusive spaces in an organization/club/team.

戦略的な計画を立てる

SWOT分析を用いて、LGBTQ+インクルーシブな取り組みの強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、そして脅威 (Threat) を特定しましょう。強みと弱みは組織内の環境や要因で、機会と脅威は組織外部の環境や要因です。この分析は、必ず規定の策定をサポートしてくれるパートナーと一緒に行ってください。SWOT分析が終わったら、行動に移しましょう。行動計画を作成し、実行してください。

弁護士に相談する

新しい規定を作成したり、既存の規定を改訂したりするときは、弁護士と、規定の原案や最終版を確認する必要があるその他の関係者に必ず相談するようにしてください。

タイムラインの設定

規定の策定から導入までの適切な期間は1年ですが、場合によっては最大で2年かかることもあります。LGBTQ+インクルーシブな規定の策定と導入では、現実的に予想される制定までの期間を設定しておくことが重要です。

対話を継続する

それぞれの組織／クラブ／チームには、選手を教育する独自のやり方があります。ここで忘れてはならないことは、教育は一度限りではなく、継続的であるべきだということです。シーズン前のミーティングにおいて新しい規定を取り上げることを検討してください。また、関係者と連携してLGBTQ+関連のプログラムを主催したり、ゲストスピーカーを招いたり、大小さまざまな選手グループ向けに講演を行うのもいいでしょう。

Q 自分が所属する組織／クラブ／チームで LGBTQ+ プログラムを導入するにはどうしたらよいでしょうか。

スポーツ組織／クラブ／チームにおけるLGBTQ+に関わる課題への取り組みと知識のレベルはさまざまです。LGBTQ+の選手への尊重とインクルージョンで最大の障壁となっているのが、自分たちのスポーツ組織／クラブ／チームの中にはLGBTQ+の選手がいないと思い込んでいたり、既に十分に歓迎されている環境であると思い込んでいたりして、LGBTQ+の選手への寛大さと受容性を明確に積極的に示した規定を策定する必要はないと考えられていることです。しかし、ここで強調すべきことは、積極的に規定を作成することによって、選手のカミングアウトを歓迎する環境が作られ、LGBTQ+の選手が受け入れられ、歓迎されていることが組織内で明確にされる、ということです。分かりやすい規定と目に見えるサポートが重要です。

スポーツにおけるLGBTQ+に関わる課題に関連するプログラムを少なくとも年に1回は計画することを検討してください。インクルーシブな表現についての教育機会を提供してくれる地域の団体と連携することも考えてください。

Develop strategic plan

Consider using SWOT analysis to identify Strengths, Weaknesses, Opportunities, and Threats regarding LGBTQ+ inclusive practices. Strengths and Weaknesses are internal; Opportunities and Threats are external. Be sure to complete this exercise with your “powerful partners.” Once you have completed your SWOT, put yourself into action. Develop an action plan and execute.

Consult with your legal counsel

When developing new policies or revising existing policies, be sure to consult with your legal counsel and any other constituents that may need to review drafts or final policies.

Build a timeline

A reasonable timeline for policy development and implementation would be one calendar year. This process could feasibly take up to two years. It is important to set realistic expectations when developing and implementing LGBTQ+ inclusive policies.

Continue the Conversation

Each organization/club/team has their own individual ways in which they educate players. The important thing to remember is that education should not be a one-time event, but continuous. Consider addressing your new policy during pre-season meetings. You may also want to partner with your stakeholders to host LGBTQ+ related programs, or bring in a guest speaker to address small or large groups of players.

Q *How do I begin implementing LGBTQ+ programming within my organization / club / team?*

The level of engagement on and knowledge about LGBTQ+ issues within sport organizations/clubs/teams across the country varies. One of the primary obstacles to respect and inclusion for LGBTQ+ athletes is that some sport organizations/clubs/teams do not believe that they have an LGBTQ+ athlete, or they may feel that the environment is already welcoming enough that they do not need proactive policies reflecting openness to and acceptance of LGBTQ+ athletes. However, it's important to underscore that proactive policies create a more welcoming environment for athletes to come out, and make it clear to your organization that LGBTQ+ athletes are to be included and welcomed. Accessible policies and visible support matters.

Consider scheduling at least one programming event during a year that relates to LGBTQ+ issues in sports. Consider partnering with community resources who offer educational sessions on inclusive language.

スポーツに関するLGBTQ+ インクルージョンの専門家や専門団体へ依頼することも検討できます。※

※専門団体のご紹介をご希望の場合はプライドハウス東京へご相談ください。

追加の資金調達、またはLGBTQ+ 関連のプログラムの設置（またはこの課題に関するすべてのプログラムの設置）への資金配分について組織の役員やリーダーと交渉する場合は、予算の要求または提案をまとめておいてください。彼ら／彼女らは、あなたが事前に準備をして、十分な情報に基づいて判断を下せるように（特に予算に影響を及ぼすような判断である場合）、あなたが細かいところまで説明できていることを知れば、高く評価するでしょう。

Q 利用できるリソースには、どのようなものがありますか？

下記 URL をご参照ください。LGBTQ+ への尊重とインクルージョンについて学べるリソースは皆さんが思っている以上にあります。あなたの知識を深めるために、下記をご参照ください。

●プライドハウス東京 ウェブサイト

<https://pridehouse.jp/handbook/>

●日本スポーツ協会 ウェブサイト

<https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html#guide1>

●アスリートアライ ウェブサイト

<https://www.athleteally.org/>

（英語のみ）



Q 性別についての質問は、どのように質問すべきですか？

出生時に割り当てられた性別と、性自認について問う、2 段階のプロセスがあります。

①あなたの性自認を教えてください（該当するものすべてにチェックしてください）。

☐女性 ☐男性 ☐ノンバイナリー ☐その他（自由記述式）

②出生時に割り当てられた性別は何ですか？

☐女性 ☐男性

Q 性別について質問するとき、募集の様式をインクルーシブにするにはどうすればよいですか？

多くの求人様式や求人資料には、性別に関する質問が含まれています。選手が回答を選択できるように多くの選択肢を用意するか、選択した回答について空欄に記入できるような自由解答欄を用意してください。性別を尋ねるための推奨する様式については、上記を参照してください。同様に、保護者やその他の家族について質問する場合も、性別を問わない表現を使用するようにしてください。例えば、「父親／母親」ではなく、「両親」または「保護者」を使用します。

また、選手が指導者や他の選手にどのように呼ばれたいかに関する質問を含むことも検討しましょう。各個人が、本人の希望や性自認と一致する名前と呼ばれることが重要です。

There are individuals and organizations available for hire who specialize in LGBTQ+ inclusion in sport.

When approaching a supervisor regarding additional funding, or funding allocation for LGBTQ+ related programming (or any programming for that matter) consider putting together a budget request or proposal. Supervisors appreciate when they can see you've done your homework and can present them with enough detail to make an informed decision, especially when it impacts a budget.

Q *What kind of resources do I have available to me?*

The short answer? A whole lot! Here's the good news: you probably have more resources to learn more about LGBTQ+ respect and inclusion that you realize. Please visit

● **PRIDE HOUSE TOKYO**

<https://pridehouse.jp/handbook/>



● **Japan Sport Association(JSP0)**

※ to educate yourself about respecting LGBTQ+ in sport in Japan

<https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html#guide13>



● **Athlete Ally** ※if in the U.S.

<https://www.athleteally.org/resources/>



Q *How should we be asking about gender on forms?*

We suggest a two step process when asking about sex assigned at birth and gender identity. For example:

What is your gender identity? (Check all that apply)

☐ Woman ☐ Man ☐ Nonbinary ☐ Different identity (please state):

What is your sex assigned at birth?

☐ Female ☐ Male

Q *How can I go about a recruiting form inclusive when asking about gender/sex?*

Many recruiting forms or recruiting materials include questions regarding gender/sex. If possible, be sure to include numerous options for players to choose their own answers, or provide an open-ended box where they can fill in the blank with an answer of their choice. See above for suggested ways to ask for sex and gender on forms. Similarly, if you're asking about parents or other family members try to use gender neutral language. For example, instead of "Mother/Father" use "Parents" or "Parent."

You may also want to consider including a question about how players want to be called by the coaches and other players. It is important to use the names and pronouns that the individual prefers to be called and assure consistency with their gender identities.

Q メディア対応はどうしたらよいのでしょうか？

メディアへの対応は、LGBTQ+に関わる課題に精通していないと感じている場合は特に注意が必要で、怖いと感じることもあるでしょう。以下のヒントを参考にしてください。

準備

まずこの課題についてインタビューで伝えたい3つの重要なメッセージを把握してください。メッセージの伝え方で分からないことがある場合は、コミュニケーション部門の同僚に相談してください。

反対しているのではなく、賛成していることを述べる。

例えば、選手がジェンダーについてカミングアウトを公表する場合であれば、その選手のアイデンティティを認め、あなたの組織がすべての人の平等とスポーツ利用に取り組んでいることを説明してください。「私たちの組織／クラブ／チームに「選手の名前」がいることを誇りに思います。私たちは、誰もがフィールド上でもそれ以外でも、ありのままの自分でいられる機会を持つべきだと考えています」

質問への答え方が分からない場合は、話題を変える。

答えたくない質問に答える必要はありません。答えにくい質問を回避する方法はいくつかあります。

ブリッジング

質問を自分の言いたいことに関連づけて答えます。「**本当に問題なのは…**」

フラッキング

相手の注意を引き、インタビューの主導権を握ります。

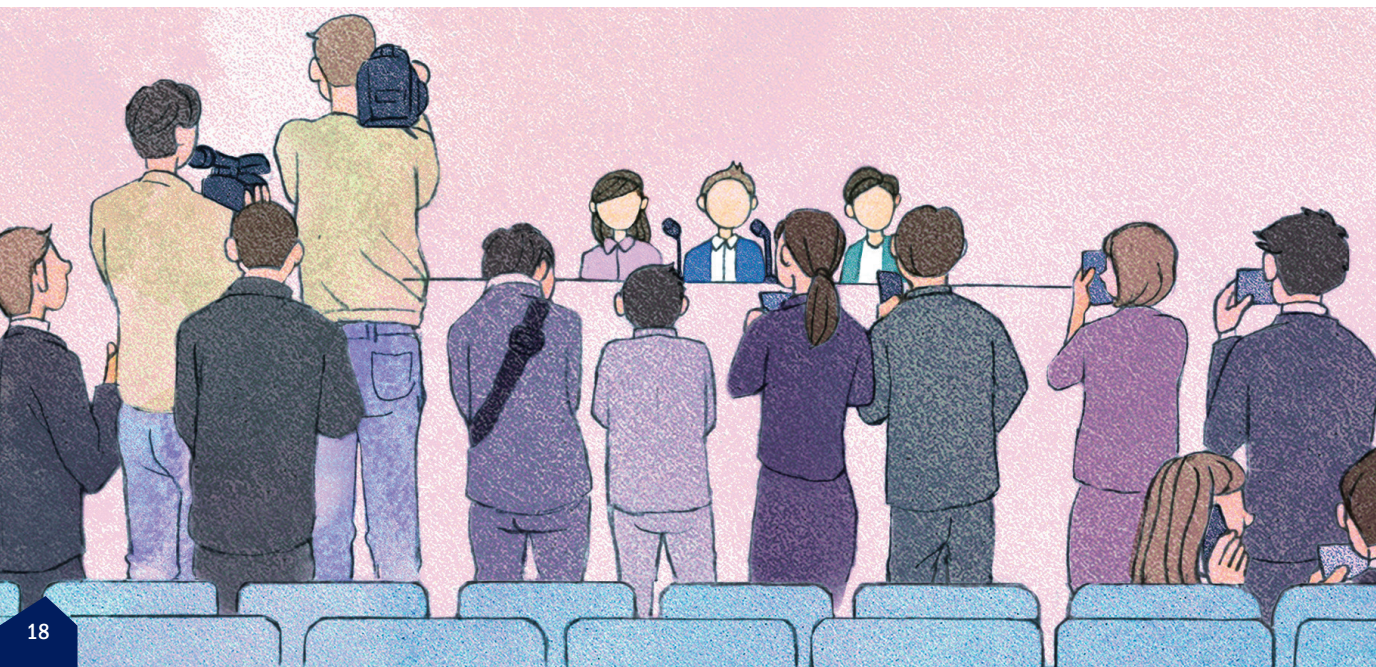
「**ですが、それだけが重要な問題ではありません…**」

フッキング

重要なポイントを強調します。「**最も重要なことは…**」

修正

問題のある質問を修正します。「**そのように誤解している人が多いですが…**」





Q *How do I handle media?*

Talking to media can be tricky and at times scary, especially if we don't feel well versed on LGBTQ+ issues. A few tips:

Prepare

Understand what three key messages you want to get across in the interview on the issues at hand. Consult your colleagues in communications if you're unsure about messaging.

Say what you're for, not what you're against.

For example, if a player comes out publicly, affirm that player's identity and your organization's commitment to equality and access to sports for all. "We are proud to have [athlete] as a part of our organization/club/team; we believe everyone should have the opportunity to be themselves on and off the field."

If you're not sure how to answer a question, pivot.

You never have to answer something you don't want to. There are many ways to pivot away from a tough question:

Bridging

Link the question to your point. **"The real issue is..."**

Flagging

Steer the interview with a hook. **"But, that's not the only important issue..."**

Hooking

Highlight the key point. **"The most important thing is..."**

Correcting

Correct problematic questions. **"A lot of people have that misconception, but..."**

Q 選手と指導者は、LGBTQ+ への尊重とインクルージョンについての研修を受けました。規定も導入しています。次に何をすべきでしょうか？

組織が講演会やLGBTQ+ への尊重とインクルージョンの研修を実施した後はどうなるのかとの質問はよくあります。1度の研修や1人の講演者で組織文化が変わることはありません。LGBTQ+ の選手への継続的なサポートを示し、指導者への教育を継続する方法はいくつかあります。

プライドマッチを開催する

国際的に、多くのチームが地域のLGBTQ+ センターと連携して、プライドマッチを開催しています。プライドマッチでは、チームのユニフォームやチケットで、スポーツメディアを通して、フィールド上で、そして試合日のスケジュールにおいて、チームの平等への取り組みを示します。「地元のLGBTQ+ の権利団体のためにTシャツを販売したい」など、試合に合わせて何をしたいかをチームで計画してみましょう。



チームは、プライドマッチで発表するインクルーシブなファンの行動規範の策定に協力したいと考えていますか？ LGBTQ+ の若者をハーフタイムに招待したいと考えていますか？ 選手に策定プロセスを指揮する権限を与えることで、リーダーシップスキルが育まれ、チーム主導のインクルージョンへの有意義な取り組みが生まれるでしょう。

Q *My athletes and coaches were trained on LGBTQ+ respect & inclusion. We have policies in place. Now what?*

We get many questions about what happens after an institution hosts a speaker or has an LGBTQ+ respect and inclusion training. One training or speaker does not change the culture. There are a series of ways to show continued support for LGBTQ+ athletes and to continue your coaches' education:

Host Pride Match

Globally, many teams hold pride matches, where they partner with the community LGBTQ+ Center. The team will showcase their commitment to equality throughout the match—in the team uniforms, on the tickets, in sports media, on the field, and in the game day schedule. Give your team some ownership of planning what they want to do in conjunction with the game – do they want to sell t-shirts to benefit a local LGBTQ+ rights organization?

Do they want to help write an inclusive fan code of conduct to roll out on the pride match? Do they want to invite LGBTQ+ youth to participate in halftime? Empowering your players to lead the planning process builds their leadership skills and creates a meaningful commitment to inclusion that is team-led.



ボランティア

継続的にLGBTQ+への尊重とインクルージョンにチームで取り組むもう1つの有効なやり方は、関連するボランティアの機会を利用することです。地元の非営利団体や市の団体を調べ、チームが参加できる方法を見つけましょう。

利用可能なリソースで対話を続ける

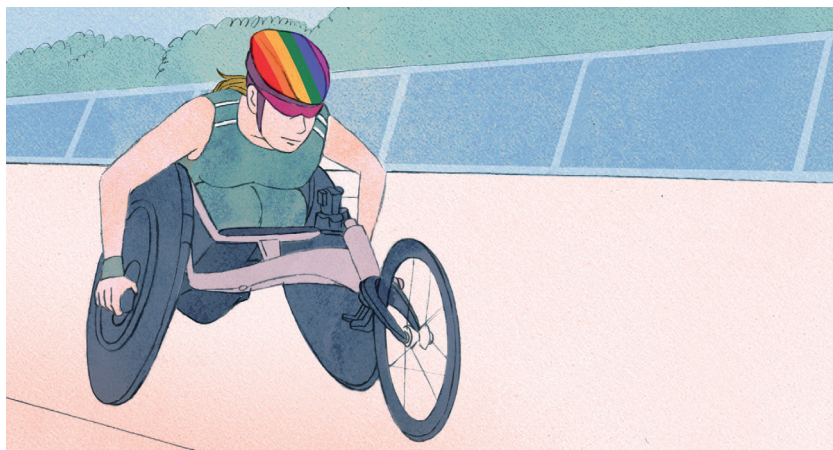
プライドハウス東京や日本スポーツ協会、そしてアスリートアライなどの団体には、指導者と一緒に継続的に教育を受けたり、対話を促したりするツールとして利用できるリソースがあります。

規定の実践について考えるにあたって、指導者とクラブ運営者から成る委員会を設置することで、規定が継続的に実践されているかどうかをモニタリングすることで、規定違反があった場合にも対処することができます。規定に違反した選手を罰することに関しては、各スポーツ組織にはそれぞれ懲罰処分に関する見解と手順があります。選手の行動を規定する行動規範などの規定では、違反した選手の処分に一貫性を持たせることが重要です。例えば、最高の成績を残しているチームのキャプテンが同性愛を差別するような中傷をした場合にも、他の選手と同様の懲罰を受けるべきです。注目されている選手には、敬意を払った、インクルーシブな行動を示すロールモデルとしての責任があると認識しておくことも重要です。

ここで重要なのは、LGBTQ+インクルーシブ規定の違反だけでなく、どんな違反についても報告するときに利用することができる、使いやすい報告システムを構築することです。

LGBTQ+インクルーシブ規定の違反を報告するときに使える利用しやすい報告システムがまだない場合は、構築する必要があります。

スポーツ組織は、違反を訴えた人への報復を防ぐための予防措置を講じなければなりません。



Volunteer

Another great way to engage your team in continued LGBTQ+ respect & inclusion is through relevant volunteer opportunities. Check out your local nonprofits and city organizations, and see how your team can get involved.

Use Available Resources to Continue the Conversation

Organizations like the Pride House Tokyo, the Japan Sport Association have some resources, as well as the Athlete Ally which can be used with coaches to continue their education and as tools to facilitate further conversation.



To ensure policies are consistently enforced, you can develop a committee of coaches and administrators. In addition to monitoring policy enforcement, this committee may also address policy violations and address disciplinary issues.

In terms of disciplining players who violate policies, each sport organization has a perspective and procedure on disciplinary measures. For policies like athlete or fan codes of conduct that govern player behavior, it's important to be consistent in disciplining players for violations. For example, if the captain on the highest performing team uses a homophobic slur, they should be disciplined in the same manner that any other players would. It's also important to recognize that high-profile athletes have a responsibility as role models to demonstrate respectful and inclusive behavior.

If one does not exist already, it is important to develop an accessible reporting system which can be used to report any violations of LGBTQ+ inclusive policies. Equally sport organizations should take precautions to prevent retaliation against a complainant.

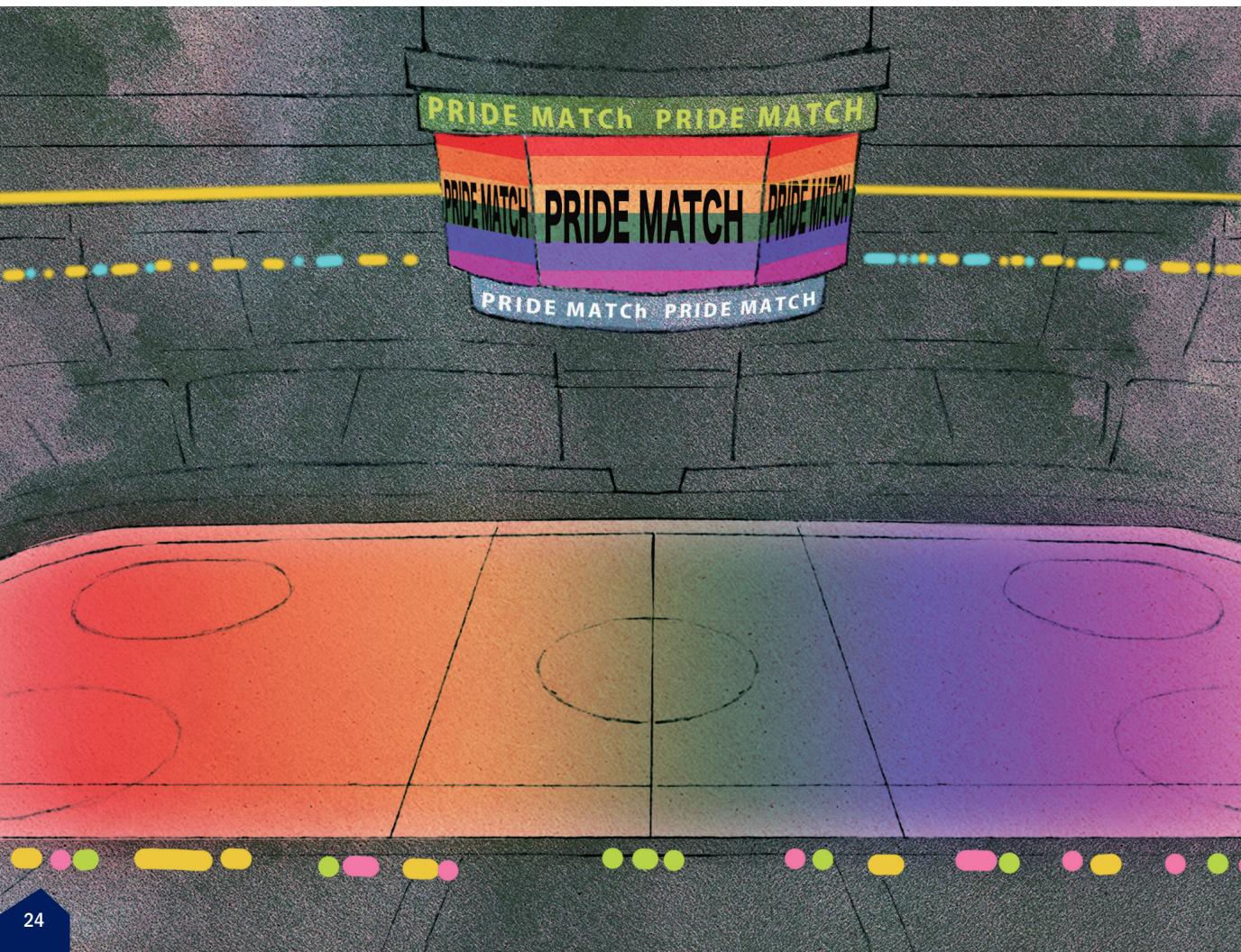
PRIDE MATCH IN A BOX

これは、プライドマッチを成功させるためのガイドラインです。

Pride Match in a Boxは、皆さんがプライドマッチを計画し、実行できるように、さまざまなリソースを提供するために、アスリートアライによって作成されました。海外ではプライドマッチが夜に開催されることが多いため、プライドナイトとも呼ばれています。

This is a guideline for how to make a successful pride match: Athlete Ally created Pride Match in a Box to provide a set of resources so you can plan and execute your own Pride Match.

In other countries, Pride Match is also called Pride Night, since it is often held at night.





ツールキットに含まれているもの

「プライド」という言葉の発祥とその重要性

ここでまとめられているプライドマッチの背景は、地元のチームや自分のチームにプライドマッチ開催の重要性を説明する際の話題として使うことができます。

プライドマッチの計画において検討すべきこと

このセクションでは、試合前後のイベントや取り組みなど、プライドマッチを成功させるために知っておくべきあらゆることを概説しています。

シアトルの事例

シアトルで開催された、連携が見事に成功したプライドマッチを他のマーケットでも再現できる事例として取り上げています。

ファンの行動規範のサンプル

プライドマッチ開催前にチームや会場に導入を依頼できるように、ファンの行動規範のサンプルを載せています。

What you'll find in the toolkit

The History & Significance of Pride

This brief background can be made into talking points if you're trying to pitch a local team or even your own team on the importance of hosting a Pride Match.

Key Considerations for Planning a Pride Match

This section outlined everything you need to know about hosting a successful Pride Match, including pre- and post-game events and activations.

Seattle Case Study

We have included an example of a particularly powerful coordinated Pride Match effort in Seattle that can be replicated in other markets.

Sample Fan Code of Conduct

We have included a sample Fan Code of Conduct to ask a team or venue to adopt before hosting a Pride Match.

■「プライド」という言葉の発祥とその重要性

1970年に行われた最初のプライドマーチは、ニューヨーク市で発生した「ストーンウォール暴動」から1年を記念して行われたものでした。その暴動は、ストーンウォール・インというゲイバーに警察が強制捜査に入ったことに対して、LGBTQ+の常連客たちが積極的に抵抗したことで起こりました。その最前線で中心となって闘ったのが、有色人種のマーシャ・P・ジョンソンと、シルヴィア・リヴェラの二人のトランス女性でした。この行進は祝祭であり、それ自体が抗議行動でもあり、LGBTQ+の人々に、堂々と人前に出て、コミュニティを見つけ、連帯する機会をもたらしました。

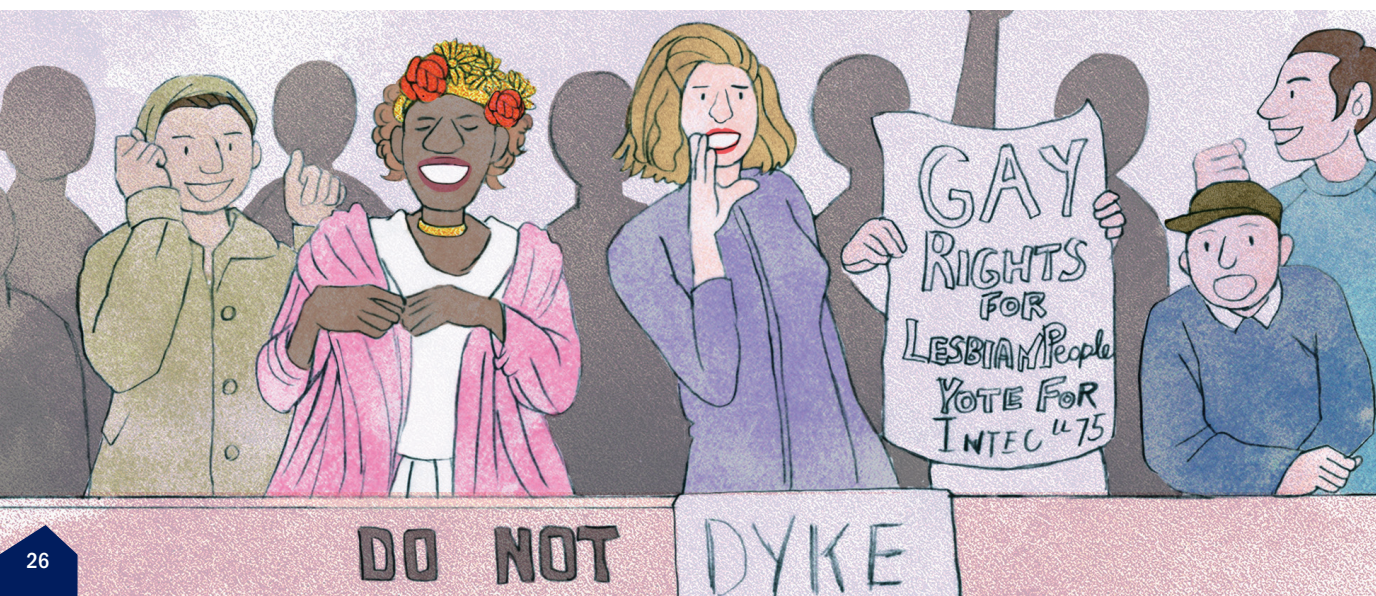
「プライド」という言葉を使うことには意義があります。なぜなら、LGBTQ+の人たちは自分の在り方を恥ずべきものだと感じる人が多いからです。見た目や行動、そして愛の在り方をめぐる差別的な社会規範と闘うことは途方もなく勇気の要ることでしょう。そして、自分自身と、自分が他人と違うことに誇りを持つことは、大胆な抗議行動でもあります。

スポーツに取り組み、スポーツを愛するLGBTQ+の人たちは特有の障壁に直面します。選手の80%が、スポーツにおいて同性愛差別を目撃したり、経験したりしたことがあると報告しています。その結果、LGBTQ+の選手がスポーツを途中でやめる可能性は、そうでない人の約2倍になっています。

社会にまん延する偏見とLGBTQ+教育の不足が、スポーツ界で同性愛者とトランスジェンダーへの差別が続いている原因です。逆に言えば、選手、チーム、リーグがLGBTQ+への尊重とインクルージョンについての教育を受け、LGBTQ+の平等を支持すれば、すべての人を歓迎し、受け入れるスポーツコミュニティの道を開く一助になるでしょう。

スポーツ界のプライドマッチの歴史は比較的新しく、20年ほど前、主にメジャーリーグの野球チームを中心に始まり、ロサンゼルス・ドジャース、フィラデルフィア・フィリーズ、そしてシカゴ・カブスなどがその先駆けとなりました。それから数年間で、プライドマッチはスポーツリーグ全体に広がり、競技を愛する気持ちを通じて誰もがつながっていることを、そして誰もが尊敬に値することを、すべての選手とファンに示す重要な役割を果たしています。

プライドマッチは、LGBTQ+コミュニティへのサポートを示すだけでなく、チームへの忠誠心を育み、強化するための戦略的投資でもあります。自分たちが認められ、尊重されていると感じたLGBTQ+のファンは、試合に足を運び、誇らしげにチームのユニフォームを身に付けるでしょう。LGBTQ+コミュニティが1つの国であるとする、その経済規模は世界第4位で、GDPは4.6兆USドル（約500兆円）に相当します。



History & Significance of Pride

The first Pride march in 1970 commemorated one year since the Stonewall riots in New York City, during which police raided the Stonewall Inn and LGBTQ+ patrons – with trans women of color Marsha P. Johnson and Sylvia Rivera front and center—actively resisted. The march was a celebration, and also an act of resistance in itself, presenting LGBTQ+ people with the opportunity to be unapologetically visible and to find community and solidarity.

The use of the word “Pride” is significant,

and leagues educate themselves on LGBTQ+ respect and inclusion and commit to standing for LGBTQ+ equality, they help pave the way for a sport community that truly welcomes and accepts us all.

Pride Matches in sports are relatively new, launching about twenty years ago predominantly among Major League Baseball teams, with the Los Angeles Dodgers, Philadelphia Phillies and Chicago Cubs among the first. In years since,



because often LGBTQ+ people are subjected to shame for who we are. It can take tremendous courage to push back against discriminatory social norms around how we should look, act and love, and deciding to be proud of ourselves and for our differences is a bold act of resistance.

LGBTQ+ people who play and love sports face a unique set of barriers. 80% of athletes report having witnessed or experienced homophobia in sports, and LGBTQ+ athletes are nearly twice as likely to drop out of sport as a result. Pervasive stigma and a lack of LGBTQ+ education causes homophobia and transphobia in sports to perpetuate. Inversely, when athletes, teams

Pride Matches have spread across sport leagues, and play a powerful role in demonstrating to all players and fans that we are all united through love of the game, and we all deserve respect.

In addition to demonstrating support for the LGBTQ+ community, Pride Nights are also strategic investments that can foster and strengthen team loyalty. LGBTQ+ fans who feel recognized and respected are more likely to come to games and proudly wear team clothing. If the LGBTQ+ community were a country, it would be the world’s fourth-largest economy, with a GDP of 4.6 trillion U.S. dollars (about 500 trillion yen).

🏠 プライドマッチを計画する 検討すべきこと

プライドマッチでは、チケットの販売だけに焦点を当てるべきではありません。最も成功したプライドマッチは、最も多くのチケットを販売するだけでなく、グループの売上とはあまり関係のない部門（例えば、地域連携チーム、チームや選手の基金、広報チームなど）と連携して行われます。LGBTQ+のファンのためのスペースを作ることが重要で、また最終的にはそれが自分たちのビジネスに役立つ理由について、スポーツ団体から実際に賛同を得る必要があります。

チケット販売を重視しないことは、チームがプライドマッチを主催する理由に関するコミュニティの認識を考慮する上で、極めて重要な検討事項です。実に多くの場合、プライドマッチにおいて、チケット販売を重視しすぎると、地域の人々は、プライドマッチは、普段は試合を観戦しないような人々に話題を提供し、スタジアムに呼び込み、売上を上げるための単なる仕組みなのだと認識されてしまいます。マーケティング、社会連携、コミュニケーション、基金などを考慮した、盤石で、全方位的な取り組みの促進によって、プライドマッチがLGBTQ+のメンバーを祝福し、LGBTQ+の平等を示すために開催されている本物の取り組みであることが明確になるのです。

試合前に、明確で簡潔で実践できるようなファンの行動規範があることを確認する。

ファンの行動規範が導入されている場合でも、LGBTQ+のファンがスポーツイベントで差別を受けることが少なくありません。ここで重要なのは、ファンの行動規範を明確にするだけでなく、ファンが差別的で、危険で、暴力的な行動を報告し、そうした人々をスタジアムから迅速かつ安全に退去させられるようにしておくことです。ファンの行動規範の例は、本冊子の36ページをご参照ください。

指導者と選手を参加させる。

プライドマッチで成長するための最大の機会の1つは、選手と指導者がこの取り組みに参加し続けることです。プライドマッチの活動において、選手とチームの代表者が発言をしない場合が、あまりにも多いです。選手、指導者、代表者がプライドマッチへの支持を表明し、チームがプライドマッチを主催する意義を強調するための、戦略的かつ自然な方法を探してください。

非営利団体のパートナーを見つける。

どのプライドマッチにも、チケットの売上の一定割合を受け取って、LGBTQ+コミュニティとの仕事をサポートする非営利団体のパートナーが関わっています。これは、LGBTQ+の選手、ファン、そしてコミュニティ全体に対するチームのサポートを繰り返し伝えるために重要なことです。また、地域で行われている重要な活動の可視化にもなります。





🏠 Planning a Pride Match

Key Considerations

Pride Matches shouldn't be focused entirely on selling tickets. The most successful Pride Matches– including those that sell the most tickets – are those that are done in partnership with a few different departments at a franchise (e.g., community affairs team, the team or a player's foundation, the communications team), not only those responsible for group sales. There should be true buy-in from the sports organization as to why creating an intentional space for LGBTQ+ fans is important and will ultimately help their business.

Deemphasizing ticket sales is an extremely important consideration that takes into account the community's perception around why a team is hosting a Pride Match. Too often, when centered around ticket sales, the local community views Pride Match solely as a mechanism to make money off of a community that otherwise may not attend games. Through a robust 360 degree activation that takes into account marketing, community outreach, communications, foundations and more, you make it clear that your Pride Match is an authentic activation that's being hosted to celebrate your LGBTQ+ constituents and demonstrate your commitment to LGBTQ+ equality.

Make sure there's a clear, concise and implementable Fan Code of Conduct ahead of the game.

LGBTQ+ fans often experience discrimination at sporting events, even if a Fan Code of Conduct is in place. It's important to not only have a clear Fan Code of Conduct, but a way that fans can report discriminatory, dangerous or violent behavior and ensure those people can be removed from the stadium quickly and safely. For an example of a Fan Code of Conduct, see the last paragraph of this section.

Get coaches and players involved.

One of the greatest opportunities for growth with Pride Matches continues to be player and coach involvement in the effort. Far too often, players and team representatives are silent around Pride Match activations. Look for strategic and natural ways for your players, coaches and representatives to show support for the Pride Match and highlight the importance of your team hosting a Pride Match.

Have a nonprofit partner of the match.

Every Pride Match should have a nonprofit partner of the match – an organization who is receiving a percentage of the ticket sales to support their work with the LGBTQ+ community. This is important to reiterate the team's support of LGBTQ+ players and fans and the community as a whole. It also makes visible the important work that's being done in the local market.

🏠 プライドマッチを計画する

試合前、試合中、試合後に何をすべきか

試合前の取り組み

プライドマッチに先駆けて計画できる試合前の取り組みにはさまざまなものがあります。それによってコミュニティが参加し、LGBTQ+の尊重とインクルージョンに対するチームの取り組みは広がるでしょう。以下に例を挙げます。

- ▶ 選手、指導者、そして地元の団体による試合前のパネルディスカッション。スポーツ界におけるLGBTQ+への尊重とインクルージョンの現状、進捗の状況、そして継続的な取り組みの機会について話し合います。
- ▶ 試合前のハッピーアワー。地元企業のLGBTQ+従業員の関係グループが会場で主催します。
- ▶ LGBTQ+の選手や支持者による試合前の基調講演と、その後のレセプションを行います。

試合中の取り組み

プライドマッチのためにスポーツ会場に人が集まるときには、プライドマッチであることを明確にすべきです。チームがLGBTQ+のファンをサポートしていることを視覚的に表明できる方法について、以下にいくつか例を挙げます。

- ▶ 会場のスタッフ、チアリーダー、ダンサーたちがプライドのTシャツやグッズ（帽子やチームロゴがレインボーカラーになっているシャツなど）を身に付けるようにします。
- ▶ 観客がスタジアムに入場するときは、ボードや大型ビジョンなど（メッセージやメディアを表示できるものすべて）をどれもレインボーカラーにします。
- ▶ チケットごとに、レインボーカラーのチームロゴが入ったグッズを用意します。そうすれば、観客はプライドマッチのさらに先の取り組みであるレインボーパレードを受け入れやすくなるでしょう。
- ▶ 会場内では、スコアボード、大型ビジョンなどをすべてレインボーカラーにします。
- ▶ LGBTQ+の選手や指導者を賞賛し歓迎します。

🏠 Planning a Pride Match

What Should Happen Before, During, and After the Game

PRE-Game Activations

There are all kinds of pre-game activities and activations you can plan ahead of a Pride Match that will engage the community and amplify a team's commitment to LGBTQ+ respect & inclusion, including:

- ▶ A pre-game panel discussion with athletes, coaches and local organizations where you discuss the state of LGBTQ+ respect and inclusion in sports, progress made, and opportunities for a continued commitment;
- ▶ A pre-game happy hour hosted at your venue by and LGBTQ+ employee resource group of a local company; or
- ▶ A pre-game keynote by an LGBTQ+ athlete or advocate followed by a reception.

IN-Game Activations

When people come to any sporting venue for a Pride Match, it should be very clear it's a Pride Match. Here are some examples of how a team can visually show its support for LGBTQ+ fans:

- ▶ Ensure venue staff, cheerleaders and dancers, have Pride t-shirts or accessories (e.g. a hat or a shirt with the team's logo in Rainbow colors);
- ▶ As people enter the stadium, all boards, giant screens, etc (anything that can display messages or media) should be rainbow;
- ▶ With each ticket, there should be a giveaway that's branded in the team logo with rainbow colors as this ensures people will wear the merchandise far beyond the Pride Match;
- ▶ Inside the venue, all scoreboards, giant screens, etc should be rainbow;
- ▶ Acknowledge and include LGBTQ+ players and coaches;



- ▶ 国歌を誰が歌うのかを考慮し、LGBTQ+コミュニティと関係のあるコミュニティメンバーを探して、国歌を歌ってもらいましょう。
- ▶ LGBTQ+の若者に対して活動をしている地元のLGBTQ+非営利団体と連携し、ハーフタイムショーや、コート／フィールド上での取り組みのために、若者たちを試合に招待しましょう。
- ▶ 各プライドマッチに関わった非営利団体に、座席をいくつか寄付することを検討し、彼らの取り組みを支持する証しとして、彼らのパートナー、サポーター、寄付者と知り合いになりましょう。
- ▶ LGBTQ+の非営利団体やコミュニティの団体が試合会場でブースを設置できるスペースを確保し、彼らの活動を広く知ってもらえるようにしましょう。

ソーシャル／デジタルメディアの取り組み

ソーシャルプラットフォームやデジタルプラットフォームを利用してプライドマッチの取り組みを広めることで、プライドマッチに実際に参加した人たち以外にも、チームのLGBTQ+への尊重とインクルージョンの取り組みを知ってもらうことができます。チームがソーシャルプラットフォームやデジタルプラットフォームを使ってプライドマッチに関連づけ、「受容」を表現するメッセージを伝える方法はいくつかあります。

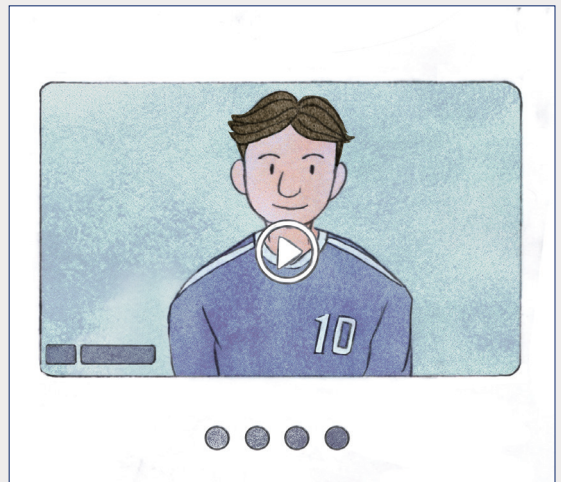
- ▶ チームの公式ソーシャルメディアで受容を表現するメッセージを共有します。チケット販売を促進する投稿のほかに、LGBTQ+への尊重とインクルージョンへのチームの取り組みについて、またプライドマッチの開催を誇りに思っている理由について説明するメッセージを1つ以上共有することを考えてください。
- ▶ 選手と指導者にリソースとサンプル投稿を提供し、プライドマッチを詳しく説明し、受容を表現するメッセージを広めるように促します。
- ▶ LGBTQ+の非営利団体や組織がこの分野で素晴らしい仕事をしていることに感謝を表明し、彼らのリソースやメッセージを共有して、この重要な仕事をしている組織をサポートできるようなメッセージを発信します。
- ▶ プライドマッチを開催する理由と、プライドマッチが重要である理由を説明するブログ投稿やニュース速報をWebサイトに公開します。LGBTQ+の選手や指導者がチームにいる場合は、プライドマッチが彼らにとってどのような意味を持つかについてゲストとして彼らに投稿をする機会を与えるといいでしょう。

- ▶ Consider who's singing your national anthem, and look to identify a community member associated with the LGBTQ+ community to perform it;
- ▶ Partner with a local LGBTQ+ nonprofit focused on LGBTQ+ youth to bring them to the game for halftime celebrations, and other on-court/field activations;
- ▶ Consider donating a suite or number of nice seats to your nonprofit of the match to attend, cultivate their partners, supporters and donors as a show of support for their efforts;
- ▶ Find space for LGBTQ+ nonprofits and community organizations to tablet at the game to spread awareness of their work.

Social/Digital Activations

Social and digital amplification of Pride Match efforts allows a team's commitment to LGBTQ+ respect and inclusion to be visible outside of just those who attend the physical Pride Match. There are a series of ways teams can use their social and digital platforms to spread a message of acceptance around Pride Match including:

- ▶ Sharing a message of acceptance across the team's official social media handles. Outside of posts encouraging ticket sales, consider sharing at least one message that just discusses your team's commitment to LGBTQ+ respect and inclusion, and why you're proud to be hosting a Pride Match.
- ▶ Provide resources and sample posts to players and coaches encouraging them to amplify the Pride Match and spread your message of acceptance.
- ▶ Consider shouting-out LGBTQ+ nonprofits and organizations doing great work in the space and sharing their resources and messaging to help support organizations doing this critical work.
- ▶ Publish a blog post or news bulletin on your website that discusses why you're hosting a Pride Match, and why it's important these matches are happening. If you have an LGBTQ+ athlete or coach, consider giving them the opportunity to write a guest post about what these matches mean to them.



メディアを通じた取り組み

プライドマッチは、あなたのチームがLGBTQ+の平等に取り組んでいることを示すものです。対象とするメディアとの連携を通じて、このメッセージが広く、戦略的に伝わるようにしましょう。

- ▶ 寄稿記事を作成し、掲載することは、あなたのプライドへの取り組み、またLGBTQ+に関わる課題へのすべての取り組みをよりよく知ってもらう効果的な戦略です。寄稿記事は、LGBTQ+の選手や指導者が書いてもいいですし、この問題について分かりやすく話ができる、協力チームの役員が書いてもいいでしょう。
- ▶ 地元のLGBTQ+の報道各社や記者をプライドマッチに招待して、サイドプログラムや広報の担当者に連絡が取れるようにし、あなたの取り組みについて話せるようにしましょう。

試合後のフォローアップ

プライドマッチへの取り組みは、一度限りの取り組みにしてしまうのではなく、1年の中で、LGBTQ+への尊重とインクルージョンを祝福し、取り組んだ瞬間とすべきです。以下のような継続的な取り組みの機会を考えてみましょう。



- ▶ チームやリーグとして、地元のLGBTQ+プライドパレードで行進してみましょう。
- ▶ LGBTQ+の非営利団体と協力して、LGBTQ+の尊重とインクルージョンの研修を選手、指導者、運営関係者、スタッフ向けに実施しましょう。
- ▶ プライドハウス東京は、LGBTQ+の平等のために声を上げているオリンピックやパラリンピックの選手、そしてプロ選手とつながっている団体です。プライドマッチと試合後の取り組みの一環として、選手と協力し、支援運動への参加を呼び掛けてみましょう。
- ▶ 重要な仕事を続けるために財政的な支援を必要としているLGBTQ+非営利団体はたくさんあります。プライドマッチのチケット売上の一部を、そのプライドマッチの非営利団体パートナーに、あるいは地元のLGBTQ+非営利団体に寄付することを検討してみてください。そうすれば、彼らの仕事を前進させるのに役立ちますし、プライドマッチがチケットを売り上げて利益を上げただけのイベントではなく、コミュニティの参加とサポートを促すものであったことを明確に示せるでしょう。

Media Activations

Pride Match demonstrates your team's ongoing commitment to LGBTQ+ equality. Ensure this message is heard widely and strategically through targeted media engagement.

- ▶ Writing and placing an op-ed is a great tactic to help drive awareness of your Pride efforts, and your overall commitment to these issues. This op-ed can be written by an LGBTQ+ athlete or coach, or an allied team executive who can speak authentically on these topics.
- ▶ Audit and invite local LGBTQ+ media outlets or reporters to your Pride Match, and provide them access to any side programming and spokespeople to talk about your effort.

Post-Game Follow Up

Your Pride Match effort shouldn't be a one and done activation, but rather one moment in the calendar year where you celebrate and commit to LGBTQ+ respect and inclusion. Consider other opportunities for ongoing engagement, such as:

- ▶ Marching in your local LGBTQ+ Pride parades as a team or league;
- ▶ Partnering with LGBTQ+ nonprofits to hold LGBTQ+ respect and inclusion trainings for players, coaches, administrators and staff;
- ▶ As part of your Pride Match and post-game efforts, consider becoming an ally to your athletes. For example, Pride House Tokyo have a list of Olympic, Paralympic and Professional athletes who have committed to using their voices to advocate for LGBTQ+ equality;
- ▶ There are a number of LGBTQ+ nonprofits who need the financial support to continue their critical work. Consider donating a percentage of Pride Match ticket sales to your nonprofit partner of the match, or a local LGBTQ+ nonprofit. Not only will this help advance their work, but will be a powerful demonstration that your Pride Match was about community involvement and support, and not just ticket sales and profit.



■ シアトルのスポーツ界でのプライドマッチの共催 ケーススタディ

2017年、アスリートアライは、シアトルのプロスポーツチーム、シアトル・サウンダーズ(サッカー)、マリナーズ(野球)、レイン(女子サッカー)、シーホークス(アメフト)、ストーム(バスケット)と連携して、各チームの代表者がLGBTQ+への尊重とインクルージョンへの取り組みを語るプライドウィークの記者会見を皮切りに、共同でのプライド・アクティベーションを実施しました。

記者会見の後、各チームのプライドマッチ(シーズン中のチーム向け)が次々と開催され、最後はチームと一緒にプライドパレードで行進しました。

この取り組みでは、さまざまなプロモーションが仕掛けられました。具体的には、試合で放映される、各チームのプレーヤーにスポットライトを当てた共同の公共広告、各チームのプライドマッチへのファンの参加を促すプライド「パスポート」、そして、この取り組みを広く知ってもらうのに役立つチームと選手のためのソーシャル/デジタルツールキットなどです。これは、すべてのプロスポーツチームが共同でプライドマッチへの取り組みを行った最初の瞬間であり、全国的なメディアの注目とオンラインのエンゲージメントをもたらしました。

■ ファンの行動規範の例 アラモよりー2019年2月

[会場名] は、すべての人にとってインクルーシブで、安全で、楽しい場所です。この行動規範は、会場にいるすべての人と、当チームのソーシャルメディアチャンネルに参加するすべての人に適用されます。ゲスト、スタッフ、ボランティア、販売業者、そして報道各社に同じ基準が適用されます。[会場名]のスタッフは、行動規範に従わない人を退去させたり、アクセスを禁じたりする権利を保持します。以下を含むいかなるハラスメントも容認しません。

- ・言葉や暴力による威嚇や脅し
- ・イベントを不当に中断させる行為
- ・暴言
- ・いかなる身体的暴力
- ・不適切な身体的接触
- ・望まない性的注目
- ・望まない写真撮影やビデオ撮影
- ・いじめやストーキング

●特に以下に関連する場合

- ・人種や民族
- ・国籍
- ・性的指向、性自認、性表現
- ・年齢
- ・障がい、健康状態、妊娠
- ・宗教
- ・市民権の資格

●やるべきこと

- ・ハラスメント行為を止めるように言われた場合は、すぐに止めてください。
- ・いかなる形でもハラスメントを経験または目撃した場合は、近くにいるスタッフに声を掛け、状況を説明してください。
- ・苦情を正式に申し立てる場合は、[メールアドレス]にEメールを送ってください。
お寄せいただいた苦情は必ず調査しますので、詳細な情報とご連絡先を教えてください。
- ・その場において身の危険を感じる場合は、スタッフに危険な状況であることを知らせ、安全な場所に移動したうえで警察を呼んでください。

Seattle Sports Coordinated Pride Match A Case study

In 2017, Athlete Ally – in partnership with Seattle professional sports teams (Seattle Sounders, Mariners, Reign, Seahawks and Storm) – coordinated and executed a collaborative Pride activation that kicked-off with a Pride week press conference where representatives from each team spoke about their commitment to LGBTQ+ respect and inclusion.

Following the press-conference, each team's Pride Matches (for those teams in-season), were held back-to-back, and culminated in the teams joining together and marching in the Pride

parade together. The effort included a number of promotional assets, including a joint PSA played at each game that highlighted players from each team; a Pride "passport" that encouraged fans to attend each team's Pride Matches; and a robust social/digital toolkit for teams and players to drive awareness of the effort. This was the first moment where all professional sports teams collaborated on a joint Pride effort, and resulted in significant national media attention and online engagement.

Sample Fan Code of Conduct Adapted from the Alamo – Feb 2019

[VENUE] is an inclusive, safe and fun environment for all. This Code of Conduct applies to everyone at the venue and all participants in our social media channels. Guests, staff, volunteers, vendors, and press will be held to the same standards. [VENUE] staff reserves the right to remove or ban any person who does not adhere to the Code of Conduct. Harassment of any kind will not be tolerated, including:

- Intimidation or threats, verbal or physical;
- Inappropriate disruption of events;
- Abusive language;
- Physical assault of any type;
- Inappropriate physical contact;
- Unwanted sexual attention;
- Unwanted photography or video recording;
- Bullying or stalking.

●What to Do:

- If you are asked to stop any harassing behavior, STOP immediately.
- If you experience or witness any form of harassment, please contact the nearest staff member to address the situation.
- To file a formal complaint, email [ADDRESS]. All complaints will be investigated, so please provide detailed information and your contact information.
- If you feel unsafe in your immediate situation, alert our staff, move to a safe location and call the police.

●Especially in connection to:

- Race or ethnicity;
- National origin;
- Sexual orientation, gender identity or expression;
- Age
- Disability, medical condition or pregnancy
- Religion
- Citizenship status

■ アスリートからのメッセージ

Messages from Athletes

藤川 タッド

プロゴルフ選手（男子）
アスリートアライ アンバサダー

ゲイであることを公表しているプロスポーツ選手として、世界中のLGBTQ+アスリートに、あなたは一人ではなく、スポーツの世界にも居場所があることを伝えたいです。LGBTQ+のアスリートが安全に完全な自分でいられるようにするためには、スポーツに携わる誰もがその役割を担っているのです。



Tadd Fujikawa,

Professional Golf Player (Men) and
Athlete Ally Ambassador

As an out gay professional athlete, I want to let LGBTQ+ athletes worldwide know that they aren't alone, and that there's a place in sport for them. Everyone in sport has a role to play in making sure LGBTQ+ athletes are able to safely be their full selves.

村上 愛梨

ラグビー選手（15人制、女子）

私にも、今までスポーツをしてきた中で、周囲に自分のセクシュアリティを受け入れてもらえない場面がありました。しかし、そんな辛い時がずっと続くとは限りません。いま伝えたい事は、当事者として悩んでいるあなたは、1人じゃないということ。現状のスポーツ界では、隠さないとやっていられないこともあると思います。ですが、変わりつつある世の中があります。自分の本心を見捨てないでください。自分のことを大切にしてください。この冊子が悩んでいる誰かの希望になり、受け入れてくれる環境を広げる一助となることを願っています。



Airi Murakami,

Rugby Player (Rugby Union, Women)

Throughout my years playing sports, I have faced situations where those around me did not accept my sexuality. However, it does not mean that those difficult times are to continue forever. I would like those LGBTQ+ individuals still struggling to know that you are not alone. Currently in sports, there are still things that have to be done while concealing who you truly are. However, the world is changing. Do not lose sight of who you are and take good care of yourself. It is my hope that this handbook can provide hope for those struggling and in need of help raising awareness and acceptance.

菊池 真琴

プロボクサー（女子）

「大丈夫。あなたは一人じゃない。」
日本では、部活。クラブ。団体。連盟。スポーツをする上では何かしらの組織に所属しなければなりません。しかし、もしもセクシャリティーが原因でこれまでの努力や実績が水の泡になったなら…。他者からの心無い言葉によって本来ならば無かったはずのストレスに苦しめられる事になってしまったなら…。「知られる事」を恐れるがゆえに生きづらさを感じている人、「知られた事」によって辛い思いをしている人は少なくないはずです。事実私もその一人でした。だからこそ表に立つプロ競技者の一人として発信しなければならないと感じています。「私たちLGBTQ+は当たり前存在する。」という事を。孤独を感じているあなた。辛い思いをしているあなたに伝えたい。「あなたは一人なんかじゃない。」



Makoto Kikuchi,

Professional Boxer (Women)

**"YOU ARE GOING TO BE OKAY.
YOU ARE NOT ALONE."**

In Japan, we need to belong to an organization to play sports, such as schools, sports clubs, institutions and associations. And, what if all your hard work was ruined just because of your sexuality? What if you were distressed by heartless words from somebody? There may be some who are living in fear because they don't want to be "found out" - while there may be some who are struggling because they were "found out." I was one of them. Through my experience - as a professional athlete, I need to speak up about our existence. WE ARE HERE. And for those who feel lonely and those who are having a hard time, I want here to say "YOU ARE NOT ALONE".

岡島 喜久子

一般社団法人日本女子プロ
サッカーリーグ (WE リーグ) チェア

女子サッカーは世界的にLGBTQ+にオープンなスポーツです。アメリカ代表のラビノー選手は女性と結婚していることを公表していますし、LGBTQ+は大切なファンのグループです。WEリーグは、みんな (WE) が主人公として活躍できる社会を目指しています。それは、性別にとらわれず多様な夢と生き方ができる社会です。日本ではWEリーグから、LGBTQ+コミュニティをサポートする雰囲気を作っていきたいと思います。



©WE LEAGUE

Kikuko Okajima,

Chair of Japan Women's Empowerment
Professional Football League

Across the globe, women's soccer communities are pledging support for LGBTQ+ issues. In the US and Europe, high profile players are openly married to their wives and are celebrated by the LGBTQ+ community. The WE league would like to build a similar atmosphere in Japan, where LGBTQ+ players and fans are supported.

廣瀬 俊朗

株式会社HIRAKU代表取締役、一般社団法人スポーツを止めるな 共同代表、Apollo Project 専務理事、元ラグビー日本代表 (15人制、7人制、男子)

LGBTQ+のアスリートが自分らしさを存分に発揮できる環境でスポーツに取り組める環境を作っていくこと。私自身は、スポーツに育てられた人間として、その環境づくりをサポートすることはとても重要なことだと考えています。あらゆる人がスポーツの経験を経て、人生がさらに豊かになるように。皆で一緒に少しずつでも自分たちができることから取り組んでいきましょう。



Toshiaki Hirose,

Representative Director of HIRAKU Co., Ltd. /
Co-Representative Director of Never Stop Playing
Sports/ Executive Director of Apollo Project /
Former Japan National Rugby Team Player (Rugby
Union & Sevens, Men)

To create an environment where LGBTQ+ athletes can safely play while being true to themselves. As a former athlete myself, I believe that it is very important to help create a safe environment for all. Let's work together and do what we can so that everyone can enrich their lives through the experience of sports.

太田 雄貴

日本フェンシング協会 会長
国際フェンシング連盟 副会長

身近なフェンシング仲間にトランスジェンダーを公表していた選手がいたおかげで、早い段階からLGBTQ+に関して考える機会がありました。誰もカミングアウトをしていない競技団体だったら「うちにはそんな選手はいない」と勘違いし、いつまでたっても自分ごととして捉えられなかったかもしれません。私自身はLGBTQ+を特別なこととは捉えておらず、沢山ある特徴の1つだと思っています。東京2020大会の後に日本のスポーツ界が変わることが何よりも重要で、フェンシング協会からLGBTQ+当事者の皆さんの心理的安全性をしっかりと保障できる環境整備をしたいと思います。



Yuki Ota,

President, Japan Fencing Federation
Vice President, International Fencing Federation

Having someone in the fencing community who is openly transgender, I had a chance to think about issues that LGBTQ+ athletes are facing. If no one came out and there were no LGBTQ+ athletes in the fencing community, I would not have taken LGBTQ+-related issues as my own problems. I believe that LGBTQ+ is only one of our many traits. The most important thing of post Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games is how we can change the Japanese sports culture afterwards. As the Fencing Federation, we will seek to create an environment to ensure that LGBTQ+ individuals feel psychologically safe at all times.

🏠 プライドハウス東京とは

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、LGBTQ+に関する理解を広げることを目指し立ち上がったプロジェクト（2023年4月にNPO法人化）。新宿御苑前にある常設の大型総合LGBTQ+センター「プライドハウス東京レガシー」を拠点に、NPOや個人、企業がコンソーシアムとなり、個別のテーマに基づき8つのチームに分かれて活動しています。

🏠 プライドハウス東京レガシー

住所 東京都新宿区新宿1-2-9 JF 新宿御苑ビル 2階

開館時間 月・火・金・土・日 13:00～19:00

休館日 水・木

どなたでも、無料でご利用いただけます。

※最新情報については、ウェブサイトやSNSをご確認ください。



🏠 About PRIDE HOUSE TOKYO

Launched as a project inspired by the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games, this initiative aims to promote the understanding of LGBTQ+ rights and inclusion and was recognized as an NPO in April 2023. Operating out of Pride House Tokyo Legacy, a permanent, large-scale LGBTQ+ center located near Shinjuku Gyoen-mae, the consortium brings together NPOs, individuals, and companies, working collaboratively in eight teams under specific themes.

🏠 PRIDE HOUSE TOKYO LEGACY

Address: 2F JF Shinjuku Gyoen Bldg. 1-2-9 Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo

Opening hours: Fri-Tue 13:00-19:00

Closed: Wed, Thu

Free admission to all.

※Please check our website and/or SNS for the latest information.



ご寄付も受付けています

All donations welcome!

詳細はホームページをご覧ください

Find more at our website:

<http://pridehouse.jp/>



@PrideHouseTokyo



PrideHouseTokyo



誰も排除しないスポーツ環境づくりのためのハンドブック

Sports for Everyone

スポーツ組織でできるLGBTQ+インクルーシブな環境づくり

第3版 2025.03.31発行

発行: プライドハウス東京 企画: 一般社団法人S.C.P. Japan

翻訳サポート: EY Japan 株式会社、野村ホールディングス株式会社MCV

ネットワーク、Olivier Fabre 助言: 来田 享子 (中京大学)

編集: 山縣 真矢 レイアウト: 妹尾 亜留美 イラスト: moriuo

プライドハウス東京アスリート発信チームが日本財団様よりご支援頂いている助成金で印刷費をカバーしています。

Handbook for the creation of inclusive sports environments

Sports for Everyone

Tips for sports organizations creating an LGBTQ+ inclusive environment

Third Edition : 2025.03.31

Publisher: PRIDE HOUSE TOKYO

Planning: Sport for Creating Pathways Japan (S.C.P. Japan)

Translation support: EY Japan Co., Ltd., Nomura Holdings, Inc. (MCV Network),

Olivier Fabre Advice: Kyoko Raita (Chukyo University)

Edit: Shinya Yamagata Layout: Alumi Senoo Illustration: moriuo

The Nippon Foundation's fund to support the Pride House Tokyo Athletes' Messages Team has financially supported the printing of this handbook.